



中央診療所広報 第32号(季刊) 平成24年1月1日発行

財団法人 京都健康管理研究会 中央診療所  
〒604-8111 京都市中京区三条通高倉東入 榎屋町58・56番地  
外来診療 TEL 075-211-4502 FAX 075-211-3004  
健康診断・人間ドック TEL 075-211-4503 FAX 075-211-3040  
臨床研究センター TEL 075-211-4504 FAX 075-211-4505  
NEWS www.chuo-c.jp

### 「決断の年」を迎えて

理事長 泉 孝英



新年おめでとうございます。

昨年、新年の御挨拶において、「今年は試練の年」と申し上げました。そして、昨年は本当に厳しい試練の年になってしまいました。

三月一日の東北大地震(犠牲者約二万人)、続いての福島原発事故に始まり、九月上旬には台風一二号による水害(犠牲者九〇人以上)と天変地異による被害・損失が続きました。加えて、円高による経済不況は、七月から続くタイの大洪水、欧州の財政危機・金融危機に追い討ちをかけられてしまいました。復興対策、原発処理、円高対策、いずれも莫大な費用が必要な話となりました。一方、この間に、わが国の債務残高(借金)は千兆円(国民総所得の約二倍、国の税収の約二十五年分)に膨張し、世界最悪の財政状況です。「財政再建」は待ったなしの課題です。

野田佳彦首相は、「税と社会保障の一体改革は待ったなし」を最大の政策課題として奮戦中です。万難を排して、今年を改革実現の初年「決断の年」としていただけることを強く期待したいものです。しかし、本来、この問題は「国民皆年金・国民皆

保険」の実現した一九六一年当初から本格的に取り組むべき課題であったはず。民主主義の限界を示すことでしょうか、選挙目当ての「先延ばし」バラマキ政治が五十年続き、わが国は世界各国の内、最悪の財政状態に陥っているわけです。国民負担率四〇%、消費税五%のわが国が、国民負担率六五%、消費税二五%の北欧諸国以上の社会保障ができるはずがないことは誰の目にも明らかです。債務の増加は当然の結果です。

どうあっても、一体改革を成し遂げて「高負担・高福祉」の日本の実現が必要。昨年来の欧州の状況となり、そのため、フランス、ドイツの経済も揺らいでいますが、「高負担・高福祉」の北欧諸国は、財政危機とは、一応、無関係です。各国の国民の資質にも問題があることでしようが、「高負担・高福祉」国家の経済的・社会的安定性を証明したことだと考えられます。

野田首相が、この改革を成し遂げることができれば、第二次世界大戦後のわが国復興の基礎を確立した吉田茂首相と並ぶ名宰相としての評価が後世、与えられることは確かなことだと思います。今年「決断の年」。そして来年は「希望の年」としたいものです。

さて、私共の財団法人京都健康管理研究会(中央診療所)は、今般、公益法人化の申請が認められ、本年四月より「公益財団法人京都健康管理研究会」として再出発することとなりました。

これを機会に、私共、中央診療所は社会保障体制下での医療機関であることを再認識し、「適切な医療・適当な医療費」、「適切・適当な健康診断機関」を目指して頑張らねばならないと考えております。

関係者各位の御理解・御協力を、今後ともよろしくお願い申し上げます。

\* \* \* \* \*

付記: 「高負担・高福祉」の社会保障体制を維持するために必要なことは、ただ、税金の問題だけではないと思います。これは、街角の人々の服装をみると、北欧の人々の服装は、わが国に比べて、はるかに「質素」であることから確かなことです。

### 新春を迎えて

所長・臨床研究センター長 長井 苑子



平成二十四年元旦、新年おめでとうございます。昨年にお世話になった多くの方々、今年も病とうまく付き合っていく一年の始まりにおられる多くの患者さん、すべての方々に、改めて今年一年の安定と、心身の健やかさの継続をさめますように。「健康に、健全に、病気とつきあうこと」を、今年も、中央診療所では努力目標にしていきたいと思う所存です。

昨年の想定外のできごとの数々には、なすすべもなく驚き、不安に駆られ、せめて今ある自分の周辺を堅実に守るしかないという姿勢で日々を送ってきたという印象があります。災害の復興、経済の行方、国際政治の中の日本の立場などを考えますと、今後の医療や福祉、介護という日本ならではのよい社会保障のあり方が、どのようにならなければならないかと、見通しのつきにくい不安感に満ちた年明けです。

高齢者の増加、若者の就職難、いわゆる日本の文化や美徳などの衰退は身近でも観察でき、実感できることです。他人を思いやる、自然を愛でる、行く末を祈るなどという、一見非科学的に見える人間の心のありかたが、科学的な精神を健全に支えてきたことも事実ではないかと感じています。

出会う多くの患者さんからの貴重な診療情報の蓄積、社会的背景を考慮しながらの総合的な臨床判断に基づいて、より適切な治療方針を決めるということが、仕事を休まずに、家庭生活を維持しながら病気とつきあうためには重要な視点です。新しい進歩が「身の丈に合う医療」に活用されるまでには「安全性の評価と有効性の評価」を含めて時間がかかります。まずは「現実感覚をもって、自分の病気とうまくつきあうこと」を、今年も、この診療所から学びとっていただけることができ、ますように、日々の努力を重ねていきたいと存じます。

今年、中央診療所は設立六十周年を迎え、かつ、当財団の公益財団法人化に向けての答申も得て、四月一日より新たに医療における公益性をより充実させるべく、決意も新たにしています。今年もよろしくお願い申し上げます。

### 謹賀新年

健康管理部長 大田 高



新年あけましておめでとうございます。経済情勢や財政状況の厳しさは続いています。どのような時でも自分の健康を維持することが基本となります。当所の健康診断が皆様の健康増進や病気の早期発見のお役に立っていることを願っております。

当所では昨年より健康塾を開始しましたが、おかげをもちまして好評をいただいております。次の健康塾は三月三日の土曜日十四時からです。場所は当所至近の三条高倉の京都文化博物館で、あの優美な赤煉瓦の建物の旧館(タイトル写真)の方が会場となります。この旧日本銀行京都支店の健康塾には是非ご参加下さい。

講演は二つあり、一つ目は当財団の泉孝英理事長によるものです。毎回、医療経済や医療の歴史などについての、斬新で独自の視点からの切り込みが好評です。今回も期待していただければと思います。もう一つは当所の神経内科の荻野俊平医師による講演で、頭痛、めまい、物忘れを扱います。頭痛やめまいは、老若男女を問わずよくみられる症状です。経験したことのある方も少なくないと思います。健康診断でも自覚症状として多くの受診者の方が訴えられます。物忘れもある年齢あたりから悩んでおられる方も多くあります。これらの症状についてこの機会に学んでいただければと思っております。また、来年度からは健康診断にメンタル面のチェックが加わる可能性が高く、こうしたことについて、今年も今後の健康塾で取り上げていきたいと考えています。

■主催: 財団法人 京都健康管理研究会 中央診療所/臨床研究センター

## 第3回 健康塾

—病気の現状を理解し、病気の予防に努める—

第3回健康塾では、病気の種類や患者さんの数などからみた移り変わりについて、特にこれからのような病気が問題となるかについて視野を広げてみましょう。さらに、高齢化社会・高齢社会では、身体の不自由が日常生活で大きな問題となります。普段から気にされているいろいろな症状について理解を深め、安全に健康に年を重ねていけるように、お手伝いできればと思います。お気軽に、土曜日の午後、ご参加いただければと思います。

日時: 平成24年3月3日(土) 14:00~16:00  
会場: 京都文化博物館 別館ホール(1F) (参加費無料)